

コートに立つと、体育館の熱気が、はだにまわりついていた。六年生にとって、これが、最後のバスケットボールの試合だ。負ければ、そこで終わり。四年生から続けてきたこのチームで、ぼくたちが、いっしょに戦えるのも、今日が、最後だった。

試合は、一進一退の、はげしい流れになった。前半を終えて、点差は、わずかに二点。ベンチにもどると、キャプテンのけんたが、みんなの顔を見回して、「まだ、いける。最後まで、全力でいこう。」と、力強く言った。その声に、つかれかけていた足に、もう一度、力がわいてくるのが分かった。

後半、相手チームの、するどいこうげきが続いた。点差は、じりじりと開いていく。残り時間は、あと二分。ぼくたちは、五点、おかれていた。(もう、だめかもしれない。)弱気な気持ちだが、心のすみに、ちらりと顔を出す。それでも、だれ一人、あきらめて足を止める者は、いなかった。ボールを追う仲間の目は、まだ、少しも死んでいなかった。

残り、三十秒。けんたのパスが、ぼくの手に、すいこまれるようにおさまった。おちゆうで、ゴールに向かって、シュートを打つ。ボールは、大きな弧をえがいて——リングに、すいこまれた。体育館が、わっとわいた。けれど、時計は、無情にも、時をきざま続ける。反げきする間もなく、終わりを告げる、ブザーが鳴りひびいた。

ぼくたちは、負けた。二点、およばなかった。しばらく、だれも、動けなかった。くやしきで、目のおくが、じんと熱くなる。うつわいたぼくの肩を、けんたが、ぽんとたたいた。「いい試合だったな。」その声も、少し、ふるえていた。ぼくは、こみ上げてくるものを、ぐっところえて、うなずくのが、せいっぱいだった。

試合には、負けた。でも、ふしぎと、心は、みじめではなかった。最後の一秒まで、あきらめずに、仲間とボールをつないだ。その事実だけは、だれにも、うばえない。この二年間、いっしょに走り、汗を流した仲間がいたからこそ、味わえた、くやしきだった。ぼくは、そのくやしきごと、この最後の試合を、ずっと、わすれないだろうと思った。

(1)「今日が、最後だった」とありますが、「ぼく」にとって、この試合は、どのような試合ですか。文章の言葉を使って書きましょう。

(2)前半を終えたとき、キャプテンのけんたの言葉を聞いて、「ぼく」の中に、どのような変化が起きましたか。文章の言葉を使って書きましょう。

(3)残り二分、五点おくれた場面で、「ぼく」の心に弱気がよぎっても、チームがくずれなかったことは、どの一文から分かりますか。文章から書き出しましょう。

(4)試合に負けたのに、「ぼく」の心が「みじめではなかった」のは、なぜですか。最も適切なものを一つ選びましょう。

ア シュートを決めて、自分だけは目立てたから
イ 最後まであきらめず、仲間とボールをつないだという事実が残ったから
ウ 相手チームが、たいしたことなかったと分かったから
エ 来年、また試合に出られると分かったから

(5)「そのくやしきごと、この最後の試合を、ずっと、わすれないだろう」とありますが、この「くやしき」を、「ぼく」が大切に思えるのは、なぜだと考えられますか。あなたの考えを書きましょう。

例えば

「本気で取り組み、仲間と全力を出し切ったからこそ生れたくやしきだから。」

「仲間と過ごした二年間の証として、大切にしたいと思えるから。」

最後の試合

解答

6年 物語文 8番

名前

コートに立つと、体育館の熱気が、はだにまわりついていた。六年生にとって、これが、最後のバスケットボールの試合だ。負ければ、そこで終わり。四年生から続けてきたこのチームで、ぼくたちが、いっしょに戦えるのも、今日が、最後だった。

試合は、一進一退の、はげしい流れになった。前半を終えて、点差は、わずかに二点。ベンチにもどると、キャプテンのけんたが、みんなの顔を見回して、「まだ、いける。最後まで、全力でいこう。」と、力強く言った。その声に、つかれかけていた足に、もう一度、力がわいてくるのが分かった。

後半、相手チームの、するどいこうげきが続いた。点差は、じりじりと開いていく。残り時間は、あと二分。ぼくたちは、五点、おかれていた。(もう、だめかもしれない。)弱気な気持ちだが、心のすみに、ちらりと顔を出す。それでも、だれ一人、あきらめて足を止める者は、いなかった。ボールを追う仲間の目は、まだ、少しも死んでいなかった。

残り、三十秒。けんたのパスが、ぼくの手に、すいこまれるようにおさまった。おちゆうで、ゴールに向かって、シュートを打つ。ボールは、大きな弧をえがいて——リングに、すいこまれた。体育館が、わっとわいた。けれど、時計は、無情にも、時をきざみ続ける。反げきする間もなく、終わりを告げる、ブザーが鳴りひびいた。

ぼくたちは、負けた。二点、およばなかった。しばらく、だれも、動けなかった。くやしきで、目のおくが、じんと熱くなる。うつわいたぼくの肩を、けんたが、ぽんとたたいた。「いい試合だったな。」その声も、少し、ふるえていた。ぼくは、こみ上げてくるものを、ぐっとこらえて、うなずくのが、せいっぱいだった。

試合には、負けた。でも、ふしぎと、心は、みじめではなかった。最後の一秒まで、あきらめずに、仲間とボールをつないだ。その事実だけは、だれにも、うばえない。この二年間、いっしょに走り、汗を流した仲間がいたからこそ、味わえた、くやしきだった。ぼくは、そのくやしきごと、この最後の試合を、ずっと、わすれないだろうと思っ

(1)「今日が、最後だった」とありますが、「ぼく」にとって、この試合は、どのような試合ですか。文章の言葉を使って書きましよう。

(例) 四年生から続けてきたチームで、仲間といっしょに戦える、最後の試合。

(2) 前半を終えたとき、キャプテンのけんたの言葉を聞いて、「ぼく」の中に、どのような変化が起きましたか。文章の言葉を使って書きましよう。

(例) つかれかけていた足に、もう一度、力がわいてくるのを感じた。

(3) 残り二分、五点おくれた場面で、「ぼく」の心に弱気がよぎっても、チームがくずれなかったことは、どの一文から分かりますか。文章から書き出ましよう。

(例) ボールを追う仲間の目は、まだ、少しも死んでいなかった。

(4) 試合に負けたのに、「ぼく」の心が「みじめではなかった」のは、なぜですか。最も適切なものを一つ選びましよう。

ア シュートを決めて、自分だけは目立てたから
イ 最後まであきらめず、仲間とボールをつないだという事実が残ったから
ウ 相手チームが、たいしたことなかったと分かったから
エ 来年、また試合に出られると分かったから

(5)「そのくやしきごと、この最後の試合を、ずっと、わすれないだろう」とありますが、この「くやしき」を、「ぼく」が大切に思えるのは、なぜだと考えられますか。あなたの考えを書きましよう。

(例) 仲間といっしょに、最後まで全力を出し切ったからこそ、味わえたくやしきで、本気で取り組んだ証だと感じているから。

例えは

「本気で取り組み、仲間と全力を出し切ったからこそ生まれてくやしきだから。」

「仲間と過ごした二年間の証として、大切にしたいと思えるから。」

問1 （例）四年生から続けてきたチームで、仲間といっしょに戦える、最後の試合。

一つ目の段落に「四年生から続けてきたこのチームで……いっしょに戦えるのも、今日が、最後」とあります。

問2 （例）つかれかけていた足に、もう一度、力がわいてくるのを感じた。

二つ目の段落に「つかれかけていた足に、もう一度、力がわいてくるのが分かった」とあります。

問3 （例）ボールを追う仲間の目は、まだ、少しも死んでいなかった。

だれもあきらめていなかったことを表す一文をさがします。「だれ一人、あきらめて足を止める者は、いなかった」でも正かいです。

問4 イ

最後の段落に「最後の一秒まで、あきらめずに、仲間とボールをつないだ。その事実だけは、だれにも、うばえない」とあります。

問5 （例）仲間といっしょに、最後まで全力を出し切ったからこそ、味わえたくやしさを、本気で取り組んだ証だと感じているから。

「いっしょに走り、汗を流した仲間がいたからこそ、味わえた、くやしき」に着目します。本気でやりきったからこそそのくやしきだ、と読み取れていれば正かいです。